

2022年3月期 第1四半期

決算補足説明資料

2021年8月5日

三櫻工業株式会社

(証券コード：6584 東証一部)

2022年3月期 第1四半期 連結損益状況

2022年3月期 第1四半期 セグメント別実績

2022年3月期 第1四半期 営業外及び特別損益等

2022年3月期 第1四半期 営業利益分析

2022年3月期 第1四半期 連結財務状況：対前期末

2022年3月期 第1四半期 連結キャッシュ・フローの状況

2022年3月期 第2四半期及び通期業績予想

2022年3月期 第1四半期 連結損益状況



	2021年3月期 第1四半期 実績		2022年3月期 第1四半期 実績				2022年3月期 通期予想 (8/5修正)	
	金額 (百万円)	売上高比 (%)	金額 (百万円)	売上高比 (%)	対前年同期		金額 (百万円)	進捗率 (%)
					増減額 (百万円)	増減率 (%)		
売上高	25,873	100.0	29,494	100.0	+3,621	+ 14.0	118,000	25.0
営業利益	▲983	▲ 3.8	2,059	+ 7.0	+3,042	-	7,900	26.1
経常利益	▲1,118	▲ 4.3	2,181	+ 7.4	+3,299	-	7,700	28.3
親会社株主に帰属する 四半期純利益	▲133	▲ 0.5	1,389	+ 4.7	+1,522	-	4,800	28.9

● 2022年3月期 第1四半期 業績概要 (対前年同期比)

● 為替レート

- 売上高：半導体供給問題、海上輸送網混乱、サプライチェーン問題に伴う影響を受けるも、前年同期の減収要因となった新型コロナウイルス感染症の影響から回復し、+3,621百万円増収。
- 営業利益：売上回復に加え、前期に実施した構造改革や固定費削減の効果等により+3,042百万円の営業黒字。
- 経常利益：営業利益の回復、為替差損益の改善により+3,299増益。
- 純利益：上記要因による経常利益の増加により前年同期比で+1,522の増益。

損益換算レート (単位：円)	2021年3月期 第1四半期 平均レート	2022年3月期 第1四半期 平均レート	変動率
ドル	108.9	105.9	▲3%
ユーロ	120.1	127.7	+6%
メキシコペソ	5.5	5.2	▲6%
人民元	15.6	16.4	+5%
インドルピー	1.4	1.5	+4%
タイバーツ	3.5	3.5	+0%
ロシアルーブル	1.7	1.4	▲14%
ブラジルリアル	24.6	19.4	▲21%

2022年3月期 第1四半期 セグメント別実績

	売上高			営業利益		
	2021年3月期 第1四半期	2022年3月期 第1四半期	対前年同期 増減	2021年3月期 第1四半期	2022年3月期 第1四半期	対前年同期 増減
	実績 (百万円)	実績 (百万円)	実績 (百万円)	実績 (百万円)	実績 (百万円)	実績 (百万円)
日本	7,338	10,824	+3,486	▲1,271	687	+1,957
北南米	9,586	8,242	▲1,344	281	255	▲26
欧州	5,782	5,899	+117	▲24	384	+409
中国	2,870	4,760	+1,890	▲68	262	+330
アジア	3,824	4,760	+936	260	554	+295
連結調整	▲3,526	▲4,991	▲1,465	▲160	▲82	+78
合計	25,873	29,494	+3,621	▲983	2,059	+3,042

● 2022年3月期 第1四半期の地域別業績のトピックス (対前年同期比)

- 日本【増収・営業黒字】 半導体供給不足の影響はあったものの、前年同期の新型コロナウイルス感染症の影響から回復し大幅増収。また、前期からの固定費抑制効果も継続したことで利益面でも大幅に改善した。
- 北南米【減収・減益】 半導体及び樹脂材料の供給不足による顧客の減産影響により減収。また物流網の混乱による輸送費増加もあったが、前期に引き続き人件費等の固定費削減を進めたことで前期水準の利益を維持した。
- 欧州【増収・営業黒字】 イギリス子会社等で前年同期の新型コロナウイルス感染症の影響から回復したことで増収。また前期の構造改革効果も継続し、営業赤字から営業黒字への転換を実現した。
- 中国【増収・営業黒字】 半導体供給不足の影響はあったものの、前年同期の新型コロナウイルス感染症の影響から回復し大幅増収。また前期からの固定費抑制効果も継続したことで利益面も大きく改善した。
- アジア【増収・増益】 ロックダウンが行われた前年同期ほどの新型コロナウイルス感染症の影響を当四半期は受けなかったことからインド子会社で大幅増収。利益面でも前期の構造改革効果も継続し対前期比で増益となった。

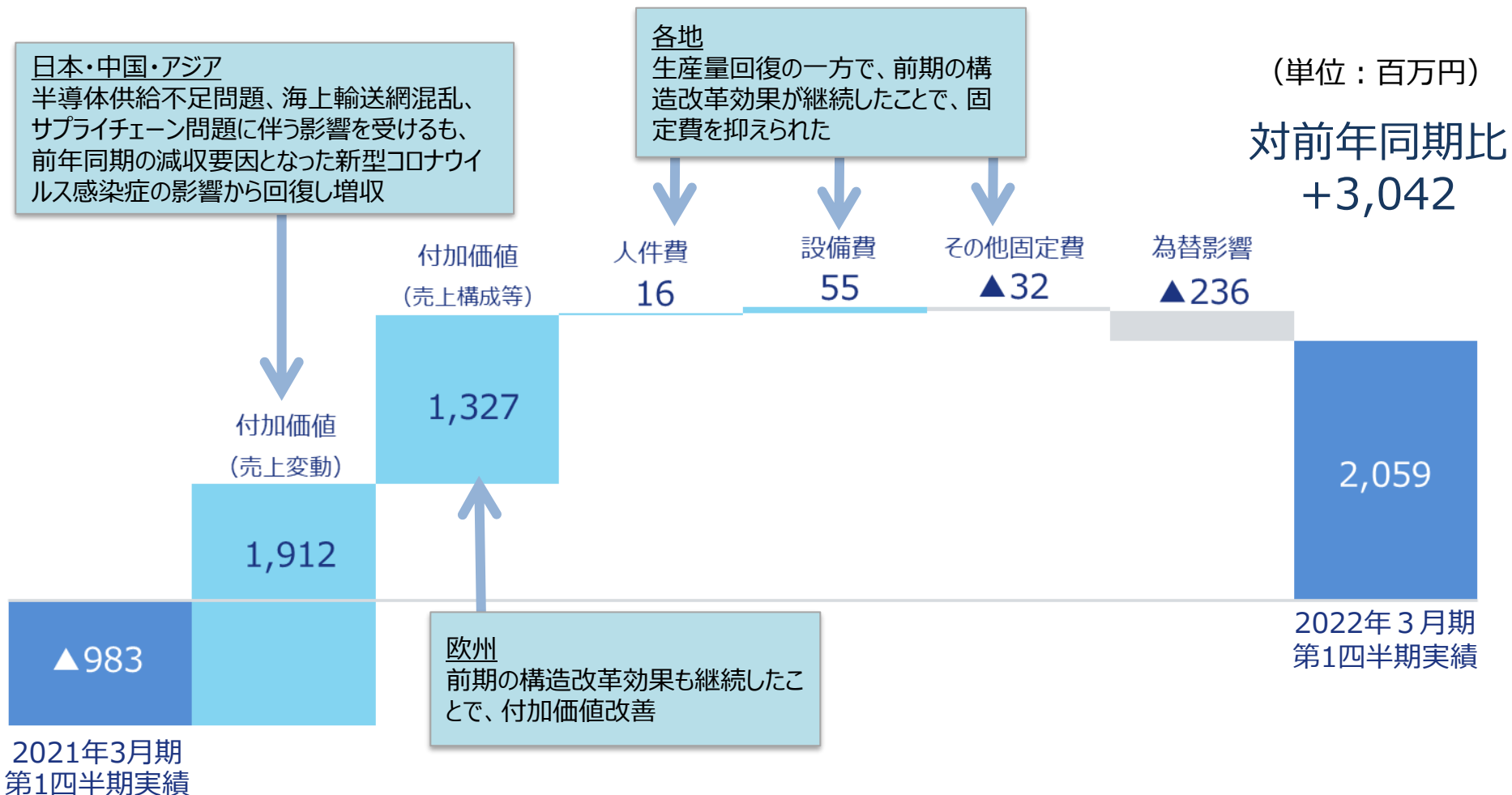
2022年3月期 第1四半期 営業外及び特別損益等



(増減額の符号は対利益符号)

連 結	2021年3月期 第1四半期 実績	2022年3月期 第1四半期 実績			主な増減要因 (金額は百万円)	
		金額 (百万円)	金額 (百万円)	対前年同期		
				増減額 (百万円)		増減率 (%)
営業利益	▲983	2,059	+ 3,042	-		
営業外 損益	営業外収益	321	262	▲ 59		雑収入減少 ▲141 (主に助成金の減少) 為替差益の増加 +98
	営業外費用	456	140	+ 316		為替差損の減少 +298
経常利益	▲1,118	2,181	+ 3,299	-		
特別利益	1,455	56	▲ 1,399		投資有価証券売却益 ▲1,180 受取保険金 ▲202	
特別損失	17	4	+ 13			
税引前四半期純利益	320	2,233	+ 1,914	-		
法人税等	295	644	▲ 349			
非支配株主利益	158	201	▲ 42			
親会社株主に帰属する 四半期純利益	▲133	1,389	+ 1,522	-		

新型コロナウイルス感染症の影響による売上減少からの回復に加え、前期に実施した構造改革及び固定費削減効果が継続したことにより大幅増益。



注：付加価値（売上変動）＝連結全体の売上増（為替補正後）×前期付加価値率（為替補正後）

2022年3月期 第1四半期 連結財務状況：対前期末



連 結	2021年3月期末		2022年3月期 第1四半期				
	実績 (百万円)	構成比 (%)	金 額 (百万円)	構成比 (%)	対前期末増減額 (百万円)	主な増減要因 (百万円)	
資 産 合 計	流動資産	50,735	58.4	53,680	59.8	+ 2,945	総資産 : +2,979 増加 ① 現預金 +1,639 (営業活動CFの増加による増加) ② 棚卸資産 +1,970 (生産変動や物流網混乱に備えた在庫確保) ③ 売掛金及び受取手形 ▲1,006 (前期末に比べ半導体供給不足等による売上減影響)
	固定資産	36,125	41.6	36,159	40.2	+ 34	
	資産合計	86,860	100.0	89,839	100.0	+ 2,979	
負 債 合 計	流動負債	33,929	39.1	35,401	39.4	+ 1,472	負債総額 : +824 増加 ④ 支払手形及び買掛金 +635 ⑤ 未払金 ▲416 (確定拠出年金移管に伴う支払い) ⑥ 未払法人税等 ▲294 ⑦ 賞与引当金 +715
	固定負債	17,452	20.1	16,804	18.7	▲ 648	
	負債合計	51,381	59.2	52,206	58.1	+ 824	
純資産合計	35,478	40.8	37,633	41.9	+ 2,155	純資産 : +2,155 増加 ⑧ 利益剰余金 +952 ⑨ 為替換算調整勘定 +1,250 (ドルやユーロ等の主要通貨の円安影響)	
負債純資産合計	86,860	100.0	89,839	100.0	+ 2,979		

(注1) D/E レシオ・・・前期末 0.80 → 当期末 0.73

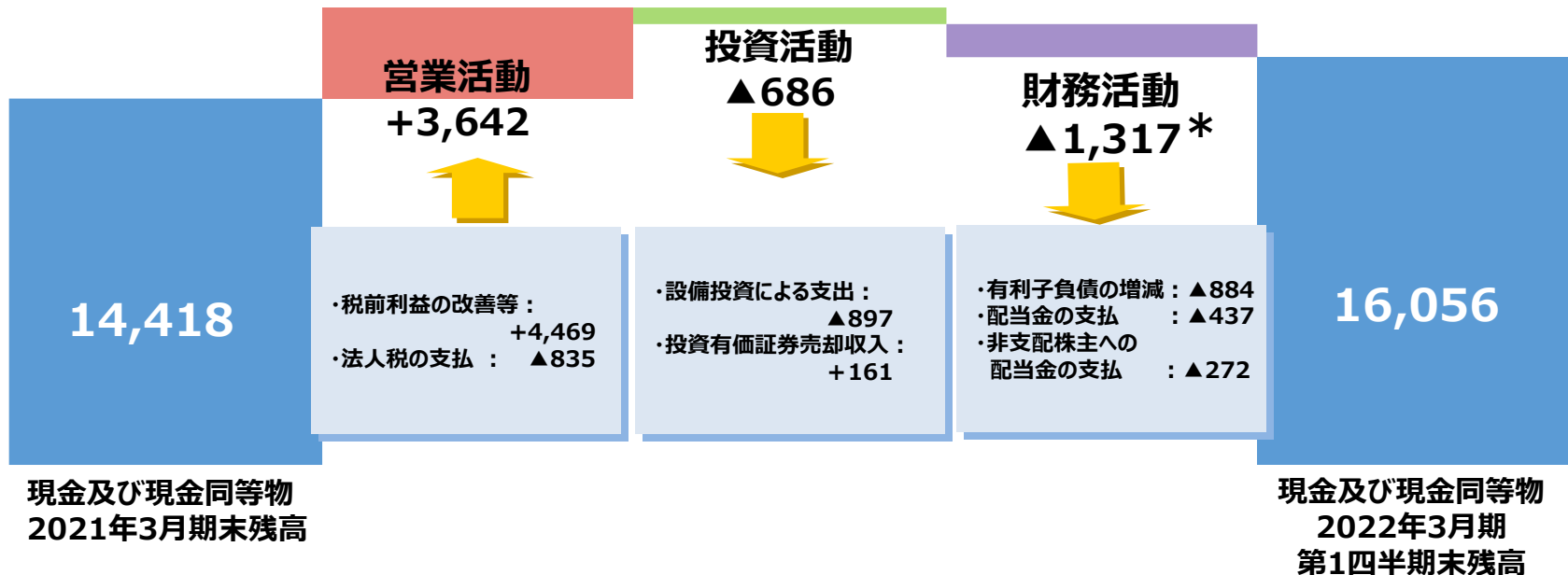
(注2) 自己資本比率・・・前期末 37.7 → 当期末 38.8

	前期末	当期末
①有利子負債	26,016	25,396
②自己資本	32,716	34,867
①/②	0.80	0.73

2022年3月期 第1四半期 連結キャッシュ・フローの状況

● 2022年3月期 第1四半期 連結キャッシュ・フローの状況

(単位：百万円)



* 現金及び現金同等物に係る換算差額 (275百万円) を財務活動に含めております。

● 設備投資/減価償却の状況

(単位：百万円)

	2021年3月期 第1四半期	2022年3月期 第1四半期	
		実績	対前年同期
設備投資額	510	897	+387
減価償却費	1,263	1,218	▲45

第1四半期実績および最近の業績動向等を踏まえて業績予想を上方修正

連 結	2022年3月期 第2四半期見込 (百万円)			2022年3月期 通期見込 (百万円)		
	前回予想 : ① (2021年5月14日)	今回予想 : ② (2021年8月5日)	増減額 : ②-①	前回予想 : ③ (2021年5月14日)	今回予想 : ④ (2021年8月5日)	増減額 : ④-③
売上高	58,000	58,000	-	118,000	118,000	-
営業利益 【営業利益率】	2,900 +5.0%	3,500 +6.0%	+600	7,300 +6.2%	7,900 +6.7%	+600
経常利益 【経常利益率】	2,700 +4.7%	3,700 +6.4%	+1,000	6,900 +5.8%	7,700 +6.5%	+800
当期純利益 * 【当期純利益率】	1,100 +1.9%	1,900 +3.3%	+800	4,200 +3.6%	4,800 +4.1%	+600
一株あたり純利益 (円)	30.35	52.59	+22.24	115.88	132.86	+16.98
配当 (円)	12.5	12.5	-	25.0	25.0	-

*親会社株主に帰属する当期純利益

業績予想を修正した要因

売上：世界的な物流網の混乱、車載半導体や原材料不足などサプライチェーンが不安定な状況に伴う顧客の減産影響は見込まれるものの、前回予想値から不変。

利益：第2四半期は上記不安定なリスク環境は残るものの、為替が想定よりも円安基調で推移していることに加え、構造改革の効果により各利益の増加を見込む。第3四半期以降は売上回復に伴い当初想定した水準の利益を想定。第2四半期までの増益見込みを考慮し、通期連結予想値の各利益も上方修正。

このプレゼンテーションで述べられている三櫻工業株式会社の業績予想、計画、事業展開等に関しましては、本資料の発表日現在において入手可能な情報に基づき判断したものです。

マクロ経済や当社の関連する業界の動向、新たな技術の進展等によっては、大きく変化する可能性があります。

従いまして、実際の業績等が本プレゼンテーションと異なるリスクや不確実性がありますことをご了承下さい。また、大きな変更がある場合は、その都度発表していく所存です。